

総評

文部科学省消費者教育推進委員会委員長・東京家政学院大学教授
上村 協子 氏

みなさん、ごきげんよう。東京家政学院大学の
上村と申します。総評に5分間を確保して
いただきましたので、萩原先生、計ってください。
さて、消費者教育推進委員会の多くのメンバ
ーがこの会場に来ております。消費者教育推進
委員会のメンバーはご起立ください。今年度の消
費者教育推進委員会は、みんなの「参画・連携・
協働」で日本の消費者教育を変えていこうとい
う目標をもって、フェスタ準備運営をしてまい
りました。



特に、消費者教育支援センターのメンバーがSDGs探検隊で思い入れのある浜松で取りまとめ
フェスタの開催をしてくださり大変感謝しております。参加者の皆さん、今日参加をしてよかつ
たなと思っていただけましたでしょうか。手を挙げてみてください。なかなかいい時間だったと
感じていただけたようで、嬉しいです。ありがとうございます。

最後の班が「ウェルビーイング」という言葉を使いました。私たちの暮らしを見直し、どんな
暮らしがいい暮らしなのだろう。私たちのこの半日間がどんな時間の過ごしをしたらいい：「ウェ
ルビーイング」な時間なのだろうと考える時間をつくろうと子供たちにも、消費者にも伝えてい
きたい、そんなことを思いました。

今までの消費生活は、ある意味、買わされ生産者と分断されて、値段で価値が伝えられる地域
が離れていった生活だったかと思います。今から子供たちに残していきたいのは値段だけ価格だ
けでなく「ウェルビーイング」をみんなで連携して、自分自身、あなたのあなた流儀の生活、質
の高いあなた流儀の暮らし方を自分で考えて作っていいよと確認できるスピリットのある
消費者教育です。その後押しができる消費者教育をしたいと思いながら、消費者教育推進委員
会のメンバーは消費者教育に取り組んできました。その思いをワールドカフェでは、皆さんに共
有していただけたのではないかなと思います。

いろんな地域でどういう連携をしていったら、子供達に「ああ、私たちはここで暮している。
こういう生活をしている。」という「ウェルビーイング」実感を持てるかは、地域によって違うと
思います。地域の皆さんが一生懸命考えて、「あなたたちの暮らし、こういう暮らしが良いらし
なんじゃないかな。」と子供達と一緒に考えてもらう。自分流儀を自分流儀でつくる場が今、作ら
れつつあるけれども、それに案外気がついていない。自分流儀、地域流儀を連携協働という形で
きづき私たちは実現をさせていきたいというのが、今日のフェスタの意気込みでございました。
少し実感をしていただけたのではないかなと思います。

最初の平田オリザさんの基調講演では、新しい学びの共同体では、「何を学ぶ」ではなく、「誰
と学ぶか」が問題で一緒に学ぶ自分のことをちゃんと受け止めてくれる共同体と一緒に学び、今、

私たちがくらす地域をつくっていくという時代が今まさに求められているように思います。点と点をつないで、物語が作られるかが大事という話がありました。「身体的文化的資本」に、地域格差が出てきつつあるという話も平田さんは言われました。

それぞれの地域で子供達に私たちはこういう暮らしをしたいのだと思わせられるような、そういう「ウェルビーイング」の物差しをもった消費者教育が実現されるのであれば、それぞれの地域の異なった「身体的文化資本」格差がなくなるのではないかなと思いました。

皆さんで、これからも各地域で地域流儀・自分流儀の本当に財産になる「身体的文化資本」を創っていき、子供たちの文化資本をつないでいていただきたいなと希望します。今日は消費者教育フェスタにご参加をいただきまして、本当にありがとうございました。皆さんたちと学ぶことができ、大変嬉しかったです。